

真鍋 誠司
MANABE Seiji

■ 専門分野

経営学分野・技術経営/イノベーションマネジメント

■ 指導可能な研究テーマ

イノベーションマネジメント、組織間関係に関する研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

（社会人専修コースは除く、2022 年度以降のみ）

【2022 年度】

- ・ラグジュアリー産業におけるカテゴリーイノベーションの可能性
- ・自動車産業における部品サプライヤーのメーカーに対するコミットメント

【2023 年度】

- ・組織コミットメントとトランザクティブ・メモリ・システム（TMS）の関係性

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

- ・山倉健嗣 編著『ガイダンス現代経営学』中央経済社 2015 年
- ・榊原清則 『経営学入門（上）・（下）』日本経済新聞社（日経文庫）2002 年
- ・加護野忠男 吉村典久『1 からの経営学』碩学舎 2012 年

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

- ・グローバル・イノベーション・マネジメント特論
- ・組織マネジメント特論
- ・戦略経営特論
- ・国際経営特論
- ・定性研究法特論

■ 博士課程後期での研究指導実績

【2013 年度】（学位取得年度）

- ・知財パワーによる技術のコモディティ化進行の抑制と課題 ―太陽電池産業とデジタルカメラ産業との比較―

【2015 年度】（学位取得年度）

- ・ビジネス・エコシステムにおけるボーングローバル企業の成長論理：
通信機器スタートアップ企業の事例分析

- ・「組織の組織」の組織化プロセス：協豊会におけるテーマ研究部会の事例研究

【2024 年度】（学位取得年度）

- ・アウトバウンド型オープン・プロセス・イノベーションの事例研究：日産自動車とトヨタ自動車の知識マネジメント

■ その他

【博士課程前期（修士）】

（1）語学力について

当研究室では、原則、日本語能力試験 1 級（N 1）相当の実力を求めます。また、先行研究の重要な文献には、英語で書かれた論文が少なくありません。そのため、「英語の文章を読むことに苦手意識がない」というのも、当研究室に所属する条件になります。

（2）研究内容・研究関心について

修士課程に入ってから何を研究するか考えるのでは遅すぎます。どのような研究をしたいのか、具体的に説明できなければなりません。特に、真鍋の研究テーマ・専門との関係が認められないものは、他の教員や大学を勧めることもあります。

（3）経営学の学習について

大学時代に経営学（特に経営組織論・経営戦略論）を体系的に学んでいない人は、経営学のテキストを用いて自分で勉強する必要があります。

- ・山倉健嗣 編著『ガイダンス現代経営学』中央経済社 2015 年

- ・榊原清則 『経営学入門（上）・（下）』日本経済新聞社（日経文庫）2002 年

- ・加護野忠男 吉村典久『1 からの経営学（第 3 版）』碩学舎 2021 年

以上のテキストのレベルは、修士課程入学試験を受験するまでに、マスターしなければなりません。

（4）修士課程入学後の演習について

真鍋研究室では、研究生、修士課程（前期課程）院生、博士課程（後期課程）院生が、同じ時間・同じ場所（現在はほとんどオンライン）で一緒に学びます。

（5）修士課程修了後の進路について

修士課程修了後の進路について、考えを明らかにしてください。つまり、日本で就職をしたいのか、母国に帰って就職するのか（日本人以外の方）、博士課程に進学を希望するのか、ということです。現在、日本で就職をするのは、人よりも際立って優れた能力がない限り、かなり難しいと言わざるを得ません。また、博士課程に進学する人には、相当な研究能力と決意を求めます。博士号を取得できたとしても、日本で大学の教員にすぐになれる人は、ほ

とんどいないという現状を知っておいてください。

すでに他の研究生が決まっている場合や、お書きいただいた内容によっては、お断りすることもありますので予めご了承ください。

【博士課程後期（博士）】

言うまでもありませんが、博士の学位を取得するのは、修士号に比べてはるかに難しいとお考えください。また、博士号を取得しても、就職状況（大学・企業）は厳しいと言わざるを得ません。真鍋研究室を希望される場合、必ず、事前（受験前）に私に相談してください。

博士後期課程の演習では、院生各自の興味・関心に基づいてテーマを決めます。ただし、経営学のトレンドや本人の能力を勘案し、こちらでテーマを修正することもあります。また多くの場合、真鍋が各自のテーマにコミットするため、共同研究の形をとり、共著で論文を書き、共同で学会報告を行います。その過程で、研究者としての方法や考え方を学んでいただきます。

なお、真鍋研究室では、以下のような方を歓迎します。

- ・勉強ではなく、研究をしたい人

勉強と研究の違いを分かっていることが必要条件です。これは、事前相談で必ず確認します。

- ・主体的に発想し、自主的に動ける人

私から何でも「与えられる」と期待しないでください。真鍋に「提案する」「教える」くらいの能動的態度を望みます。

- ・最低限の日本語（読む、書く、話す、聞く）ができる人（英語 EP を除く）

これは、留学生だけではなく、日本人にも言えることです。特に、読み手が理解しやすい論文を書くことは、容易ではありません。

「日本人だから、日本語ができる」と考えている人は、大きな勘違いをしていると言えるでしょう。